

就勝就喝!

東洋学園大学

東洋学園大学では3年生前期の必修授業のなかで、就職活動のオンライン模擬面接を導入している。2019年度から対面での模擬面接を授業内で実施していたが、新型コロナウイルスの感染拡大で20年度からオンラインでの面接に切り替えた。導入の目的やコロナ禍の就職活動の状況などを、教養教育センター長の中村哲之氏に聞いた。

ネット模擬面接、必修授業で

教養教育センター長
中村 哲之氏



は3年次春学期の「キャリアデザイン」の必修授業内でのコンテンツだ。授業ではエントリーシートの書き方、業界研究や面接の受け答えなどを指導している。模擬面接は授業最後の集大成のような位置づけだ。

学生が自宅やキャンパス内からパソコンでビデオ会議ツールの「Zoom」を使って、5人6人グループで約40分の形式で進める。面接官役には外部の就活コンサルタントを起用し、学生もスーツを着るなどして本番さながらの緊張感だ。面接後には一人ひとりに受け答えの内容や話し方はもちろん、照明やカメラの向きといったオンライン特有の注意点も指導する。

模擬面接をした学生からは「就活への意識が変わり積極的になった」「3年次の夏のインターンシップに参加するきっかけになった」などといった声が集まっている。コロナ禍でのオンライン上のインターンを実施する企業も多く、模擬面接で慣れることでさらに学生の積極的な参加を促せると思う。

本番さながらの雰囲気再現

本学の就職率は例年97%前後を推移しているが、21年3月卒は91.9%と落ち込んだ。グローバル・コミュニケーション学部にはホテル業界や航空業界を志望する学生も一定数いるが、別の業界も視野に就職活動をせざるを得ない状況だった。企業や業界の情報収集も難しく、友達同士の近況報告もしづらい。オンライン面接は対策をとっているが、どうしても直接対面しないと魅力が伝わりづらい学生もいる。

ただ本質的に求められている人間性や社会性などはコロナ前とは変わっていない。オンラインという特殊な状況下でも、学生本来の実力や魅力を発揮できるように様々な取り組みで支援していきたい。

(聞き手は藤田翔)